

「尾瀬」に関連する参考資料

編集責任： 前田栄三（雲南懇話会）

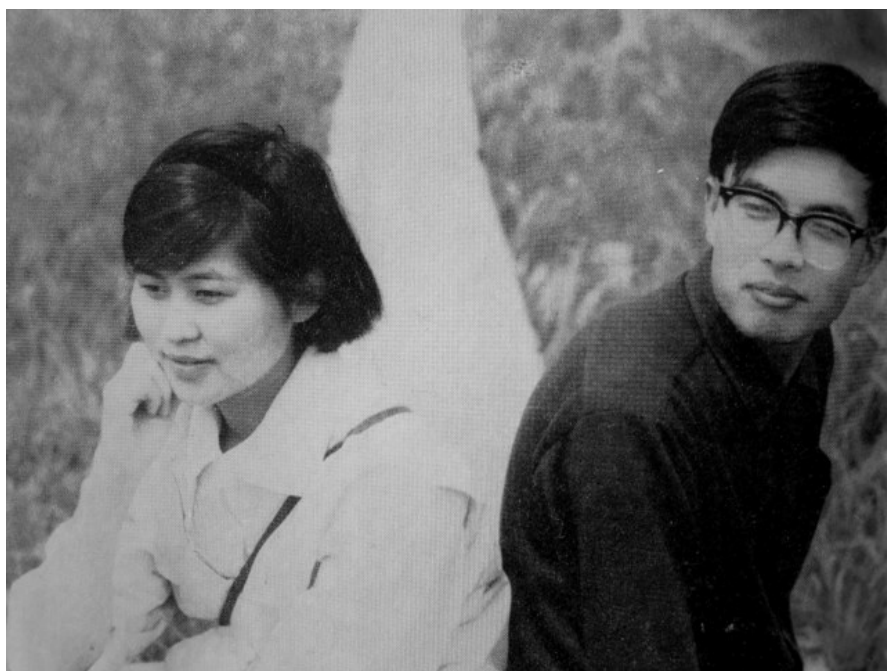
1. 風景点描 そして三代目ご夫妻



(2014年6月1日、前田栄三 撮影)



(2008年6月1日、前田栄三 撮影)



左の写真は、平野長靖著「尾瀬に死す」（平野紀子発行、1990）巻頭の“平野長靖、紀子夫妻”の写真の要部。「大江川湿原で、41年7月」とあります。平野紀子さんの同意を得て、転載しました。

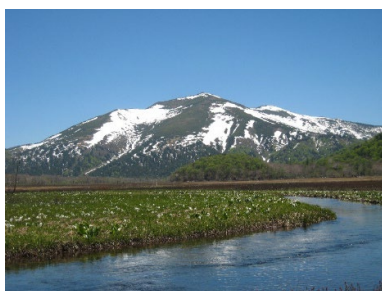
下の3枚の写真は、何れも前田栄三撮影。

左：2014年6月1日撮影。

中：2008年6月1日撮影。

右：2014年6月1日撮影。

初夏の尾瀬です。





尾瀬沼畔 長蔵小屋。
長蔵小屋ホームページ
から転載しました。

2. 尾瀬 概念図 (財団法人 尾瀬保護財団ホームページから転載しました)



3. 尾瀬の歴史【1590年～1950年の間】(公益財団法人 尾瀬保護財団ホームページより転載。)

年号	年	西暦	月日	記事
天正	18年	1590年		豊臣秀吉、真田昌幸を利根郡の領主とする。昌幸の子、信幸が初代沼田城主となる。
慶長	5年	1600年		関ヶ原合戦年、初代沼田城藩主、真田信幸が、沼田街道を全面整備する。
	この頃			尾瀬沼畔が上州と会津の交易の場となる。
	19年	1642年		銀山平境界争い始まる(会津・越後の境界争い)。
寛永	20年	1643年		檜枝岐など会津5ヶ村が、会津・越後境界争いで幕府に上訴。江戸から役人が実地検分に来る。
天保	3年	1646年	3月4日	会津・越後の国境を只見川と決定。

元禄	11年	1698年	6月2日	沼田領土出村山守と会津領檜枝岐名主との間に国境の画定が行われる（現在の県境）。土出村、戸倉村と檜枝岐村の境界決定する。
慶応	4年	1868年	5月	戊辰の役で会津藩士約300名が檜枝岐に駐在、戸倉まで遠征し、戸倉戦争が沼田会津街道で展開（会津勢と官軍の戦）。戸倉の部落が焼かれ、関所も焼失する。この際、大江湿原に会津軍防戦のため作ったと思われる土塁を今でも見ることができる。
	元年		11月6日	会津藩降伏。
	5年	1872年	7月	日光道（片品村東小川～金精峠）の建設着工。
	6年	1873年	10月	日光街道（現在の金精道路・国道120号線）が沼田街道の枝道として完成。
	9年	1876年		片品地域、群馬県の管轄となる。
	13年	1880年		檜枝岐村が郡区制廃止により南会津郡となる。
	22年	1889年	9月24日	平野長蔵氏、燧ヶ岳を開山、燧ヶ岳山頂に石祠を建立。
明治	23年	1890年	8月1日	平野長蔵氏、尾瀬沼沼尻に行人小屋を設置（この年が俗に「尾瀬開山の年」といわれる）。
	31年	1898年	7月上旬	早田文蔵氏（後の東大教授・植物学者）植物調査で入山。沼尻平にてナガバノモウセンゴケを発見。
	36年	1903年		初めて尾瀬ヶ原の水力発電ダム計画が発表になる。
	38年	1905年	7月	武田久吉氏、尾瀬初入山。翌年4月創刊の「山岳（日本山岳会機関誌）」に「尾瀬紀行」を発表。
	41年	1908年	7月15日	大下藤次郎ら4名の画家が尾瀬を写生旅行。「みづゑ」臨時増刊号（尾瀬特集号）に発表。
	43年	1910年		平野長蔵氏、沼尻に初の山小屋・長蔵小屋を建てる。
	44年	1911年		衆議院で「国設大公園設置に関する建議案」が可決される。
				関東水電株、権利の喪失を防ぐため、設計変更願を提出。
	2年	1927年	6月	武田久吉氏、田村剛氏が東京営林局の委嘱で、発電計画にからんで現地調査を行い、調査書提出。
				武田久吉氏、「春の尾瀬」発表。
			8月12日	尾瀬沼が日本百景に推薦される。
	3年	1928年	6月	上毛電力株による丸沼発電所の工事開始。専用自動車道を鎌田～丸沼間開設。
				武田久吉氏、「秋の尾瀬」発表。
昭和	4年	1929年	1月	国立公園協会発足。
			7月6日	原寛博士、至仏山でオゼソウ採集。
				禁漁区に指定される。
	5年	1930年		文部省天然記念物調査委員の現地調査により尾瀬が「指定価値あり」と報告されたが、政治上の理由により実現せず。「天然記念物調査報告書」の形で尾瀬の動植物を紹介。
			8月20日	平野長蔵氏死去（59歳）。
			4月1日	国立公園法公布。
	6年	1931年	10月1日	国立公園法施行。
				画家田中保雄氏、同好者によって「尾瀬の会」組織、「尾瀬」第1号を発表。

7年	1932年		尾瀬への年間入山者数2500名程度（平野長英氏調査）。
9年	1934年	9月1日	李王殿下、尾瀬に来遊。
		12月4日	日光国立公園の一部として国立公園に指定（第二次指定国内4番目の国立公園）。天然記念物の指定が内定されたが、見送られる。
10年	1935年		平野長英・星段吉両氏が、温泉小屋～柴安嵩への道（現在の温泉小屋道、2008年より廃道）を拓く。
		10月	東京電灯株、三たび尾瀬発電のための尾瀬ヶ原ダム計画を発表。
12年	1937年	夏	段吉新道（温泉小屋～御池）開通。
13年	1938年	5月13日	日光国立公園特別地域に指定。
15年	1940年	1月1日	公園利用計画の一部として、尾瀬沼畔を通る旧沼田街道を県道沼田～田島線の名で車道化計画決定。
17年	1942年	4月1日	配電統制令により、配電関係が9配電会社に整理され、関東配電が創立、水利権が移る。
19年	1944年		尾瀬沼の取水発電計画発表。尾瀬沼水路工事開始（戦争で一時休止）。
22年	1947年	7月	尾瀬沼発電水路工事について、学者・日本発送電・農林省・文部省・群馬福島両県関係者40名が、長蔵小屋で可否を協議（反対は平野長英氏1名）。
		秋	尾瀬沼発電水路工事再開。「不必要になれば廃棄する」「尾瀬ヶ原には今後一切手を付けない口約をもって」許可。
23年	1948年		尾瀬ヶ原に高さ100mのダムを作り、尾瀬ヶ原を13万km ² （尾瀬沼の8倍）の大貯水池とし、貯水量7億2千万km ³ 、230万kwの巨大ダム発電計画が発表される。
		1月	尾瀬ヶ原貯水池化計画進むが、文部省は天然記念物指定を検討していたためストップをかける。
		10月15日	公園利用計画の追加決定。県道沼田～田島線は主要地方道大清水～七入線として再確認される。
24年	1949年	10月27日	国立公園協会内に、尾瀬保存期成同盟（日本自然保護協会の前身）が、学者・文化人・登山家を中心に結成、請願運動を行う。市民運動の先がけとなる。
		11月11日	沼尻に尾瀬沼取水ダム堰提工事完成。このため水位の上下による植物の枯死始まる。早稲ッ沢湿原の白い砂浜が姿を消す。 NHKラジオで「夏の思い出」を放送。
25年	1950年	4月19日	尾瀬沼集団施設地区のほか、歩道、園地、宿舍の一般計画決定。 国立公園協会、財団法人として認可。東京電力株、尾瀬ヶ原ダム計画発表。尾瀬保存期成同盟、国会請願。
		夏	“群大の井戸”中田代に掘る。
		10月25日	「尾瀬ヶ原地帯を水源とする地域の電源開発に関する研究」報告書を群馬県知事公室企画室で発行。
		11月15日	尾瀬沼の水、発電用にナメ沢（片品川の源流）に通水される。 文部省“尾瀬ヶ原総合学術調査研究”第1回調査。植物学・動物学・地質学・気象学・化学などの研究担当者によって「尾瀬ヶ原及びその周辺地域の総合的調査」（研究報告発行は1954年）

5. 平野長靖著「尾瀬に死す」

尾瀬沼畔 長蔵小屋 平野紀子さん発行。1990年